

## 愛知県環境審議会総合政策部会 会議録

### 1 日時

令和元年12月26日（木）午前10時～午前11時15分

### 2 場所

愛知県自治センター4階 大会議室

### 3 出席者

委員8名、専門委員2名、説明のために出席した職員20名

### 4 傍聴人

1名

### 5 会議録の署名

会議録の署名について、榊原部会長が浅川委員と夏原委員を指名した。

### 6 議事

#### (1) 審議事項

愛知県環境基本計画の改定について

資料1から3について、事務局から説明を受けた。

#### 【質疑応答・要旨】

(夏原委員)

「自然との共生」について、自然保護が自然共生という考え方は古く、自然をどう賢く利用していくかということが大事だと思う。来年、中国・昆明で開催されるCOP15でも、持続的な利用に重点を置かないと生物多様性の目標を達成できないという考え方が重視されている。

また、昨日、環境省で国内希少野生動植物種の追加指定が行われたが、その対象はタガメ、カワバタモロコ、トウキョウサンショウウオの3種である。これらはどれも農業生態系に依存している生物である。あいちミティゲーションにより工場に

ビオトープを作るなど進展しているが、自然と関係が強いのは農林水産業であることから、農林水産部局と調整した内容も必要ではないか。

(事務局)

自然をどう賢く利用するか、持続的な利用について、今後検討していく。農業生態系を踏まえた農林水産部局との調整についても、今後、関係部局と意見調整を行い、検討していく。

(山澤委員)

全体の方針として、SDGsを前面に出して、その中で各施策を位置付け、どういった効果があるかという内容になっている。SDGsの中では、地球温暖化対策があまりはっきり見えてこない。具体的な見え方、目標がはっきり見えて、どれだけ進んでいるかといった内容にしないといけないのではないか。その判断基準として、国の目標「温室効果ガスの総排出量を2030年度に2013年度比で26%削減」は全く不十分だと思っている。2013年度比としたこと自体、腰が引けているので、もっと踏み込んだ内容が、全体の方針の中でわかるようになることを期待したい。

(事務局)

今回、SDGsを打ち出した説明になっているが、こうした考え方も新しく取り入れつつ、それぞれの施策について、個々の個別の考え方を組み合わせながら、作成していく。

(松尾委員)

「安全・安心の確保」で、「災害発生時における体制の強化」とあるが、自然災害発生前の防止、軽減が重要ではないか。それは「自然との共生」や、「地球温暖化対策」にもつながると思う。SDGsで言えば、「住み続けられるまちづくり」にもつながる。発生してからの対応だけでなく自然災害そのものへの対応も入れてほしい。

また、「良好な水環境の保全」について、健全な水循環の保全といった視点も必要ではないか。例えば、あいちミティゲーションによる自然環境の保全と再生では、開発行為により、自然が持っている降雨の遮断蒸発機能や浸透機能が失われ、それらをどう保全するかといった視点も必要だと思う。

(事務局)

自然災害の未然防止については、気候変動への適応策の普及を考える上で、関係

部局と調整して、記載していきたい。良好な水循環についても、取り入れていきたい。

(大石委員)

市民レベルで対応できることから政治的に解決すべきことまでいろいろあるが、今回、政治的なレベルのものはない。例えば、国際的に批判のある石炭火力発電の問題は、この場では議論しないということによいか。

(事務局)

個別のエネルギー源をどう組み合わせていくかというのは国の施策である。現在、電気事業連合会が、2030年度にCO<sub>2</sub>排出係数を0.37kg-CO<sub>2</sub>/kWhにするという目標を掲げており、それに向けて再エネを確保、バイオマス由来の木質チップを使用するなどいろいろな方策を掲げている。個々の発電所事業については踏み込みにくい、電気事業連合会の目標達成を前提に、昨年、あいち地球温暖化防止戦略2030を策定した。再エネの普及促進など県の取り組める範囲の中で地球温暖化防止対策を進めつつ、国の動きを注視していきたい。

(山澤委員)

石炭火力発電について懸念しているが、個々の発電所事業については踏み込みにくい。また、国の施策に対して、どれだけ強く言えるか実効性が担保できないと思う。こうした中で、「地球温暖化対策」に、CO<sub>2</sub>の排出削減、排出抑制というのがキーワードとして入ってなければいけないと思う。それを受けた具体的な取組としていくつかアイデアを出して考えていく。例えば、一定の排出係数以上の電源は使わないくらいの目標があってもよいのではないか。具体的な施策として、県民が電源をどう選択するかという部分に働きかけるような目標の設定の仕方もありえるのかなと思う。

(事務局)

電力自由化により、契約先となる電力会社のCO<sub>2</sub>排出係数が公開されている。県では、電力調達の際に、一定の省エネ、CO<sub>2</sub>排出にも配慮させた上で入札を行っている。再エネを選択して購入する環境が整ってきており、今後、こうしたことも組み合わせながら、家庭や工場でのCO<sub>2</sub>削減が進むようにしていきたい。

(浅川委員)

農林水産業が生物多様性に関わっているという意見があったが、その他にも水環境、土壌、資源循環を含めて関係部局と連携をお願いしたい。

また、「地球温暖化対策」について、「次世代自動車の普及拡大」とある。愛知県は自動車産業が重要だとは思いますが、交通で考えると、公共交通機関の利用、パークアンドライドという視点もいるのかなと思う。むしろ自動車交通を減らす方向も必要ではないか。

(事務局)

農林水産業に関する関係部局との連携を深めていきたい。交通システム、パークアンドライドなどについて今後の検討課題にしたい。

(橋本委員)

温室効果ガスの吸収源対策の推進とは具体的に何か。

(事務局)

主な取組として、あいち森と緑づくり税を活用して、山間部の民有林の間伐を行い、森林の機能を強化したり、都市部の緑化を行うことで、吸収源対策を進めている。

(松尾委員)

「行動する人づくり」は4つの取組分野を支えるイメージだとは思いますが、離れて配置されている。4つの取組分野を支える基盤であり、そうした関連が見えるように記載してほしい。

(事務局)

各取組分野を支えるイメージになるよう、表現を工夫する。

## (2) その他

あいち・なごや生物多様性EXPO等について、事務局から紹介があった。

以上

愛知県環境審議会委員 浅川 晋

愛知県環境審議会委員 夏原 由博